

〔和漢三才圖會百二柔滑菜〕黃獨 苦萋出于邵武府志 俗云介以毛 時珍以黃獨爲土芋之異名者非也

鎮江府志云黃獨莖蔓花實絕類山藥葉大而稍圓根如芋而有鬚味微苦

按黃獨葉似佛掌薯葉而大色稍淡其零餘子似薯蕷之零餘子而大其根如芋魁而有硬鬚煮則皮

毛自脆肉白味淡甘美處々皆有藝州廣島多出之

藥肆有以黃獨稱何首烏販者大僞也何首烏葉長尖如薯蕷葉其根如小甜瓜而有五路無毛詳見薯蕷草下

〔五雜俎十一物〕何首烏五十年大如拳服一年則鬚髮黑百年大如椀服一年則顏色悅百五十年大如

盆服一年則齒更生二百年大如斗服一年則貌如童子走及犇馬三百年大如三斗栲栳其中有烏

獸山嶽形狀久服則成地仙矣

〔物類稱呼三生植〕黃獨けいも 畿内にてけいもと云東國にてかしゆうと云藥種の何首烏にあら駿遠にてせつぷといふ相模にてせんぷと云仙臺にてべんけい芋といふ

〔成形圖說二十二菜〕毛芋ケイモ 根芋魁のごとくて硬何首烏芋或は毛芋何首 大頭久オホヅク 比米西州 ○

毛芋は藤生にて葉宛がら薯蕷に類て稍長太く色深し野生なし園圃中に種藝り棚に搭し引上

す晩夏葉間に花開く暮秋に根成て實著く暖地にては葉に虫を生せり而其根團に大き斗の如

く毛多し外土黄色肉は微黄なり味略家芋サトイモに似て粘とねばらざるあり註 其根を乾し蓄て明

年の種となせり○中上總あたりにて大ヅクと呼て湯に淪し鹽を傳ツルて朝夕の飯にかて、食へ

り

〔草木育種下菜〕黃獨かしう 鎮江府志 貯置たるかしうむかごを四月頃山畑に穴をほること四五寸一つ植る

也尤まやげ肥を土へませ植へし

〔重修本草綱目啓蒙九滑〕土芋 ケイモ カシユウイモ カシユウ 東國 ゼツプ 遠州 ゼンブ

相州 ベンケイイモ仙臺 ○

中略